

富士見台小学校はいくつあるの？

私たちが住む富士見台小学校区域。何となくどこにでもありそうな小学校名ですが、東京近郊でどのくらい別の地域にもあるのか、とても気になったので、調べてみました。



引用：YAHOO 地図、各小学校ホームページ

富士山が良く見える場所だから富士見台と名付けられたとは言え、近くでは富士山のお膝元の富士市、遠くは富士山が本当に見えるのかどうか疑問に感じてしまう名古屋市にも富士見台小学校があるということは驚きですね。また、東京都内には4校ありますが、そのうち3校が豊島区、板橋区、練馬区と隣り合う区にあるのも面白いですね。

- ① 富士市立富士見台小学校
昭和52年創立 児童数400名
- ② 名古屋市立富士見台小学校
昭和37年創立 児童数956名
- ③ 豊島区立富士見台小学校
昭和25年創立 児童数265名
- ④ 調布市立富士見台小学校
昭和27年創立 児童数388名
- ⑤ 藤沢市立富士見台小学校
昭和42年創立 児童数605名
- ⑥ 練馬区立富士見台小学校
昭和48年創立 児童数603名
- ⑦ 川崎市立富士見台小学校
昭和47年創立 児童数947名
- ⑧ 板橋区立富士見台小学校
昭和29年創立 児童数405名
- ⑨ 横浜市立富士見台小学校
昭和28年創立 児童数547名

小島町3丁目に新設の認可保育園誕生！

平成28年4月より、品川通りから富士見台小学校のほうへ入った所（小島町3-16-8）に、社会福祉法人檸檬会 レイモンド調布保育園が開設されます。0歳児9名、1・2歳児15名ずつ、3～5歳児17名ずつ計90名の認可保育園です。ここ数年待機児童の問題がクローズアップされ、調布市内でも認可保育園が相次いで開設されています。多摩川小学校区域、第三小学校区域の子どもも通うことになると思われますが、これからも地区協議会の活動は期待されていることを胸に、安全安心の地域づくりに貢献したいと思います。



編集後記

地域活動をしていると、どの地域、組織にもメンバーを先導してくれる強力なリーダーがいます。ここ富士見台地区にも、誰からも愛されまた誰よりも地域を愛していたリーダーがいました。昨年6月27日に急逝した故大久保正二さんは、そんな地域のリーダーだったと思います。調布市観光協会会長、調布市花火大会実行委員長、多摩川自治会会長などを長年歴任された故大久保さんには、理念も大切ではあるものの、地域の方々と楽しく活動することの大切さを、いつも笑顔で教えて頂いたように思います。ここに生前のご厚意を深謝し、心よりご冥福をお祈り申し上げます。 By A.K.

ありがとうございました！



出典：調布経済新聞 <http://chofu.keizai.biz/>

地域を結ぶ ふれあいネット

富士見台

みんなの新聞

思い立ったら吉日 すぐやろう！

富士見台地区のみなさん！お元気でしょうか？最近はどうも気候が異常のようで、平年（過去30年の平均値）と比べると大きな差があります。この傾向は、日本のみならず世界中で起きています。また、火山の噴火、地震等も大型化、多発化しています。そんな気候や自然現象の異常が目立つなか、東京都が昨年『東京防災』を発行しました。皆様のご家庭にも配布されたと思いますが、この冊子は幅広い内容を取り扱い、かつ充実した内容になっていますので、是非とも読んで頂ければと思います。お持ちでない方は、調布市役所でも配布していますので、是非ご一読ください。

ところで、なぜ東京都が今このような「防災」に関する冊子を各ご家庭に配布したのでしょうか？国は首都直下型地震が30年以内に70%の確率で発生すると言っています。30年以内というのは30年後ではありません。明日かもしれないし、来月かもしれない。仮に20年後や25年後に起こるのならば、今このような冊子を発行しても、ほとんどの方の記憶から消えていることでしょう。即ち、そのような記憶が残っている間に首都直下型地震が発生すると予測しているとも考えられます。今から数年内かもしれない。この首都直下型地震はマグニチュード7または震度7程度で、震源地は東京湾奥とも言われています。ところがピンポイントで震源地を予測することは非常に難しく、5km、10kmずれることも当然あり得ます。これがもし北側にずれるとすると、震源地が「日本の行政や経済の中心地」になります。さらにマグニチュード8や9になる可能性もありまし（マグニチュード8は7に対して約100倍のエネルギー、マグニチュード9は7に対して約1万倍のエネルギー）。直下型地震の震源地は、1秒間に0.5m～1.0mのタテ揺れが2回で長い時間続く場合もあると言われています。日本の建物の耐震基準はヨコ揺れのみので、タテ揺れに対応している建物はほとんどありません。即ち「首都壊滅」の可能性もあるのです。

ちなみに、この前の首都直下型地震は1855年（安政2年）に起きました。この時の震源地は内陸でしたが、この地震と前後して「安政大地震」と言われる地震が頻発しました。1854年7月～1858年4月までの4年間に、今言うところの「南海大地震」「東南海大地震」「東海大地震」「東北大地震」「首都直下型大地震」のすべてが起きています。この次に首都直下型地震が起きる場合も、同じようにその前後で太平洋側に大型地震が頻発すると言われています。

皆さんにお伝えしたいのは、そのような大地震がある太平洋側地域で起きるとすると、当然その地域に対して全国から支援物資が集まり、支援が続けられますが、そうこうしているうちに私たちが住む東京で首都直下型大地震が発生することも十分に考えられ、そうなると避難場所に対する支援物資が滞ることが予想されます。その点をしっかりご理解してください。そうすれば自ずと大地震に備え「何をすれば良いか、何をしなければならないか」が解ると思います。

- ・避難所までの避難経路の確認
- ・家族、親戚、近所の方々と連絡を取る方法の取決め
- ・備蓄（常備薬、食料、着替え等）

備蓄については3日分、1週間分、1ヵ月分と色々な意見もありきりがない話ですが、皆さんご自身が重点品目を定め、しっかりと取組んでください！！！！

皆さんはもちろん避難所が何処かはご存知ですネ！今年も富士見台地区協議会では11月に防災訓練を行います。色々な訓練を計画していますので、是非ともご参加してください。

【第7号】

- ◎ 発行：富士見台地区協議会
- ◎ 発行責任者：竹口裕
- ◎ 連絡先：042-482-3012
- ◎ 発行日：平成28年3月31日



防犯パトロール

毎年、夏休み終わりの8月と年末の12月にそれぞれ4～5日程度、富士見台小学校区域の夜間防犯パトロールを実施しています。平成27年8月には布田小地区ハッピータウン協議会と夜間合同パトロールを行い、J:COMの取材が入るなど、楽しみながらパトロールを行うことができました。



非常用防災ポンプ水出し

平成23年度の地域カルテによって設置された多摩川5丁目にある府中用水暗渠の非常用防災ポンプです。このポンプにより地下水を汲み上げることができ、災害時に飲み水としては使用できないものの、トイレや洗濯などで使用する生活用水として利用できます。実際に災害が起きてしまったときに動かないなどという事態にならないよう、毎月第2土曜日に水出しを行っています。

調布駅周辺開発



京王線が地下化されてから既に3年半が経とうとしていますが、ようやく平成28年3月から建設工事が開始されました。

富士見台地区に関するエリアとしては、京王線と京王相模原線に挟まれた三角地帯「C敷地」約7,200㎡ですが、ここには鉄骨造（一部鉄骨鉄筋コンクリート造）地下1階地上5階建て延べ床面積16,044㎡の規模で、複合映画施設と立体駐車場が建設されることとなります。完成は来年9月の予定です。

今回は同時に新宿方面寄りの「A敷地」に地上5階建て延べ床面積10,600㎡の規模で商業施設、駅前広場を挟んで西側の京王八王子方面寄りの「B敷地」に地上4階建て延べ床面積5,256㎡の規模で同じく商業施設が建設されます。

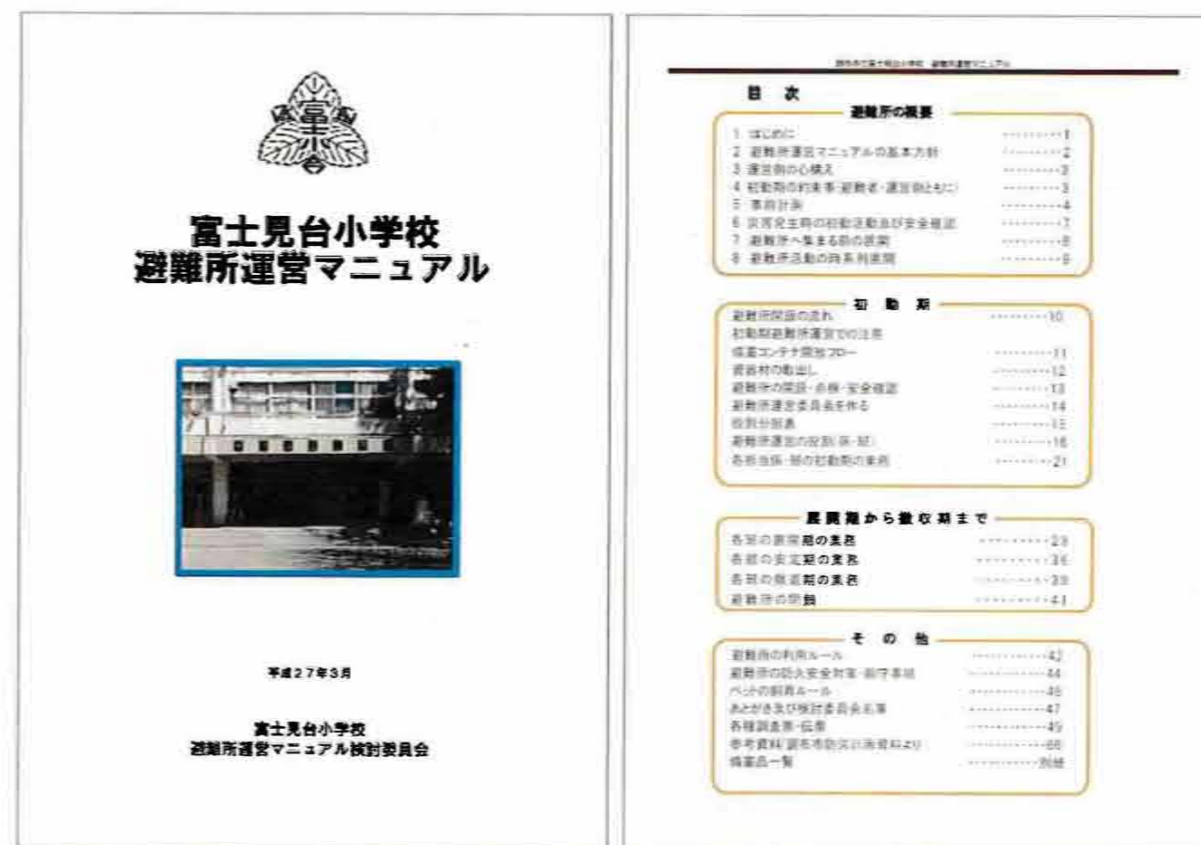


出典：平成26年11月6日 調布市調布駅前広場事業説明会資料

これらA敷地からC敷地の建物は京王電鉄株が建築主となりますが、同時に整備が計画されている調布駅前広場については調布市が主体となります。一昨年から駅前広場が復活し、週末にはフリーマーケットや様々なイベントが開催され、夜には無名のミュージシャンの路上ライブを聞くことができたりしていましたが、今年になり駅前大きな樹木が伐採されたり、バルコの南側市道が通行止めになったりと、いよいよ本格的に工事が始まる様相を見せてきました。

富士見台地区協議会としては、駅前広場と同時に旧相模原線鉄道敷地跡地利用がとても気になるのですが、今後の数十年を見越した中で地域にとって必要となるものを見極め、調布市に改めて協議の場を求め、地域の声を届けていきたいと考えます。

富士見台小学校避難所運営マニュアル完成



平成25年から平成27年の2年間にわたり、調布市総合防災安全課、富士見台小学校、PTA、各自治会等のご協力を得ながら、地区協議会の重要な事業として避難所運営マニュアル作りを行ってきました。既に富士見台小学校では、教職員の方々が作成した避難所運営マニュアルがありましたが、避難所を運営する主体が地域の方々であるという前提に立ったマニュアルとして、今回とても充実したマニュアルを作成することができました。

作成に際して、現実的に校舎内のある教室が遺体安置所として定められていたりすると何だか悲しい気がしたり、体育館利用に際してペットの取扱いをどのようにしたら良いのかを検討しながら、現代人にとってのペットがどれほど大切な存在なのかを垣間見ることができたり、とかく小学校にある備蓄コンテナの食料等に頼りがちになるものの、それが大規模災害の際にはどれ程少量しか無いのか現実として理解できたり、マニュアル作成を通じて、もちろん大災害発生時のイメージを持つことができましたが、それと同時に、現代に生きる都市住民の悲哀も知ることができたように思います。

マニュアル作成のなかで多くのことを知ることができましたが、大災害が発生してもすぐに全員が避難所へ行くべきではないという点は目から鱗でした。東日本大震災などの映像を思い返すと、津波や原発事故で全員が避難するイメージが強い方が多いと思いますが、内陸部で倒壊や火災が主な被害となる大災害では、雨露をしのげて生活が可能な居住空間がある場合は、避難所へ行くよりも自宅で待機していたほうが安全かつ安心だということです。その理由としては、避難所はかなり限られた食糧、スペース、人員しか無いこと、衛生的にも決して清潔な状態は維持されないこと、そして何より他人と一緒に同じスペースで共同生活を送ることは大きなストレスや精神的苦痛に繋がることが挙げられます。

また、避難所はそこに避難した住民の方々が発言するという点も改めて気付かされました。これまでのイメージでは、行政や学校関係者の方々が中心になって色々と指導をしてくださり、避難する私たち住民はそのサービスを受けるという感じてましたが、避難所での主体は行政でも学校でもなく、私たち住民自身だということです。調布が大災害に見舞われるということは、私たち住民だけでなくそれの方々も同じく被災することになりますし、その方々にも大切な守るべき家族が居るということは、当然それぞれの方々の家族のところへ行くべきですので、当然と言えば当然ですね。さらに、今回富士見台小学校避難所運営マニュアルを作成した地区協議会メンバーが、必ずしも避難所に避難するとは限らず、避難所運営においてリーダー的な役割を担うことができない可能性も高いという点も、とても重要です。ただそのような事態に備え、今回この富士見台小学校避難所運営マニュアルが作成できたことは、万一大災害が発生して避難所が開設されるような事態になった場合に、きっと大きな役割を果たすことができるでしょう。

東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所事故により避難された方々に聞いたところ、避難所での生活はそれまでの生活とはかけ離れた悲惨なものだそうです。ご自宅が失われた場合は止むを得ないものの、まずは私たち自身が「自助」を心掛けて大災害に備えることが大切です。避難所運営マニュアルを作成した結果分かったことは、行政や学校関係者による「公助」、地域の皆さんによる「共助」に過度な期待をしてはならず、大災害発生時の拠り所としてはならないということです。皆さんが各々の「自助」を成し遂げられるよう、まずはご自身で十分な備えを行うことが何よりも大切であると言えます。